

平成30年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

智頭町立智頭中学校

研究テーマ

「生徒の興味・関心、満足感を高め、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の工夫」
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践～

スーパーバイザー： 広島大学大学院教育学研究科 木下 博義 准教授

1 はじめに

本校は鳥取県東部に位置し、生徒数130名の小規模校である。町内に小学校1校、中学校1校で、小中連携も活発に行っている。また、智頭農林高校との連携も行っている。

広島大学の木下先生には、この数年間、智頭中学校の校内研究に指導助言をいただいていた。その成果として、研究テーマにある「生徒の興味・関心、満足感」は生徒アンケートの結果を見ると概ね目標に達成していると思われる。一方、新学習指導要領の目指す資質・能力の育成については取り組みが十分とはいえない。そこで、標記の研究テーマを設定し、そのための手法としてアクションリサーチにも引き続き取り組んできた。

2 研究のねらい

アクションリサーチの実践を通して、生徒の興味・関心・満足感を高め、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。

3 研究の内容

- ・アクションリサーチを共通実践し、授業改善に取り組む。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の工夫を行う。
- ・授業と関連づけた課題等、家庭学習を意識した授業の充実を図る。

4 実践内容

(1) アクションリサーチの実践

全員がアクションリサーチを作成し、授業実践をし、検証し、成果と課題について検討する。特に、授業研究会においては木下先生に事前に

メール等で直接指導していただき、当日の授業の改善に役立てた。

① 第1回校内授業研究会 6月27日

授業者 山本健太 教諭（英語）

アクション・リサーチ			
氏名 ()			
対象・単元	学年・組 第3学年 組	単元名 Unit13 [Fair Trade Event]	
テーマ	生徒の興味・関心や満足感を高め、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の工夫～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践～		
問題 (生徒の実態)	本学級の生徒の授業態度は良好であり、比較的前向きに学習に取り組もうとする。しかしながら学習集団として学習意欲にムラがあり継続的に意欲を持って英語学習に取り組めない状況が生まれている。また、家庭学習の習慣が身についておらず、授業で学習した内容が学方向上に繋がらない生徒がいる。		
リサーチ・クエスチョン	どうすれば、生徒を継続的に意欲を持って英語学習に取り組ませることができるだろうか。		
仮説	検証方法	実践	検証結果
ペアやグループ活動のメンバーを毎回変えれば、学習意欲を向上させたり、維持させたりすることができるのではないか。	①学習の様子を観察および生徒の振り返りを活用して意欲を図る。 ②年2回の学習アンケート「意欲的に学習に取り組んでいる」の項目の生徒評価平均4.0以上		
コメント (目先を変えるという意味では効果があるかもしれませんが、本質的なところでの仮説を考えられるとよりよいと思います)	コメント ①について、どのように評価するのか、明確にしておく必要があります。感覚的な評価に陥る可能性があります。		
成果 (研究全体を通しての成果)			
課題 (明らかになった次の課題)			



② 第2回校内研究会 8月22日

木下先生の講義と2学期以降の実践者のアクションリサーチ作成演習。

③ 授業公開

指導案とリサーチペーパーを作成し授業を公開する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の工夫

① 第2回校内授業研究会 10月22日

(智頭町小中合同授業研究会)

授業者 田中成行 教諭 (数学)

土海真由美 教諭 (道徳)



数学の授業では、多様な考え方を引き出す工夫として電子黒板やミニホワイトボードを駆使し、大変活発な話し合い活動ができた。道徳の授業では、自分の問題として捉えさせる工夫として生徒同士の意見交換や役割演技を取り入れ、振り返りシートに多くの生徒が自分の将来につなげる感想を書いていた。

② 各種研修会や講演会に参加し、思考力を高めるための授業の工夫や最新の動向について学んだ。

(3) 家庭学習の充実

東部教育局の事業とタイアップし、授業と関連づけて家庭学習の充実を図った。

① 授業と関連付けた課題等、家庭学習を意

識した授業の充実を図った。

② 家庭学習 My Challenge

テスト期間を活用し、家庭学習の時間目標を設定し、実施を記録する。

③ Daily Life の活用

終学活に Daily Life (生徒の生活ノート)の生活時間帯に帰宅後の学習計画を記入させ、帰宅後の生活の見通しをもたせる。

5 スーパーバイザーによる指導助言

- ・ リサーチクエスションは1つか2つに絞り、スモールステップで進めること。
- ・ 内容を具体的に書くこと。感覚的な事柄や主観的な表現では検証ができないからである。
- ・ 1枚のアクションリサーチで完結させる必要はない。改善できなければ別の仮説を立てればよく、改善できれば次の課題に向かえばよい。
- ・ 仮説がないと検証ができない。検証方法のところをつめていく必要がある。
- ・ これからの子どもたちに求められる力として、答えが1つではない問題を解く力をつけたい。
- ・ 「ゆさぶり」「ねりあげ」をうまく取り入れていくと、対話的な授業となる。

6 研究のまとめ

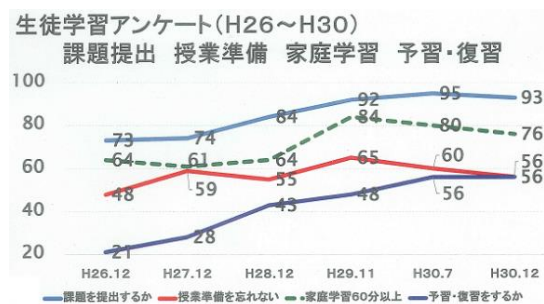
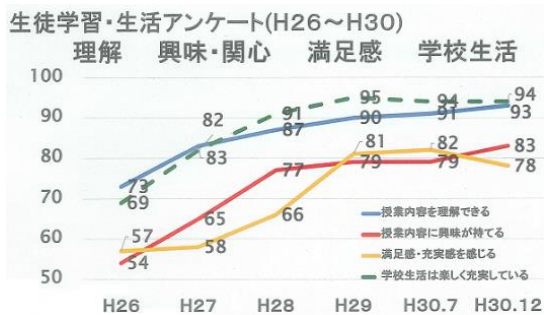
(1) 成果

- ・ アクションリサーチの手法及びアクティブラーニングの視点等理論研究が進み、授業実践の基礎ができた。それにより、授業者が自分自身の授業を客観的かつ具体的に振り返ることができるようになってきた。
- ・ アクションリサーチはスモールステップで取り組むので、研究への取りかかりが容易であり、他の教員の授業を参観することで自分の授業改善に役立てることができた。
- ・ 校内での授業交流、小学校との授業交流 (小中合同授業研究会及び日常的な授業

参観)により、教科や学校種の枠を超えた授業分析力や教科横断的な教科指導への意識が高まった。

- デジタル教科書や電子黒板、タブレットの活用により、授業の活性化・効率化が図られ、また図書館活用教育の推進により、主体的な学びが促進された。
- 生徒の授業への興味、関心や満足度は向上してきている。

- 生徒対象学習アンケート結果(肯定的回答)



(2) 課題

- アクションリサーチは授業者個人個人の授業改善には有効である。学校全体統一研究テーマ「主体的・対話的・・・」「振り返りの充実」等共通実践事項のさらなる推進が課題である。
- 理論や実践例の研究を個々の教師の確実な実践に結びつける必要がある。授業改善が必要とわかっているにもかかわらず多忙な業務の中で十分な取り組みができないというような実情がある。
- 落ち着いて一生懸命に学ぶ姿勢はあるが、自分で課題を発見し、自分のこととして学び、解決する主体的な学び、また、深く学ぶ思考力・判断力・表現力がついていない。

- 家庭学習は積年の課題である。家庭学習の時間数を増やすとともに、家庭学習の必然性や質の向上を図る別角度からの手立ても必要である。
- 家庭学習の時間の調査結果(平成30年度全国学力・学習状況調査質問紙結果より)

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満	全くしない
智頭中	6.7	11.1	51.1	26.7	4.4	0.0
鳥取県	6.1	24.9	38.4	17.9	8.3	4.4
全国	10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9

7 おわりに

広島大学の木下先生に校内研究の指導助言をお願いして5年が経過した。研究の手法としてアクションリサーチは取り組みやすく、教員個々の課題解決に有効である。その成果として、生徒アンケートの理解度や満足度の向上があると思われる。

しかし、改善されない課題として、家庭学習の時間や学力の問題がある。向上しつつあるとはいえ、全国と比較すれば十分とはいえない。学校の教育環境は整った現状にあるがゆえに、この点では更に改善することが必要である。

ご指導いただいた木下先生、そして、このような機会を与えていただいた本事業に感謝し、来年度更なる前進を図りたい。